

大和三大行結びの行 十種大行之秘儀

大和の光

12月号

《発行所》
大和教団
仙台市青葉区錦町2-4-24
大和教団本庁
電話 (代) 022-261-2525番
振替 仙台 02220-3-45512
発行人 大和教団 定価50円



神紋
八咫鏡と太陽を
かたどったもの
で、国家の隆昌
と世界の共存共
栄を意味してお
ります。

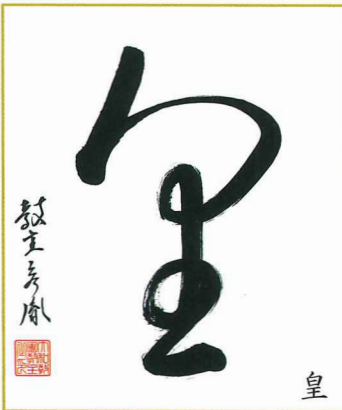
大和の言霊

万物を敬い、職場を愛し、
常に和やかな笑いを忘れ
るな。
(大和神典 第二之三七一言)



十一月の月も忙しく神明奉仕にお仕えさせて頂き、有り難い月となった。
特別神事にてのお救いを多種多様お仕えさせて頂いた。
苦悩の象に変化しつつあるを悟るものである。私の特別神事の執行にても大神に全託にて、奇すしきみちびきの祈り、作法にと変化する。
本年の結びの行なる十種大行での幽顕和合火祥神事にありても火の象の中にも、我が祈りにも、それは顕現される。
二十二日、二十三日の一夜二日の行なれど、大和の三大行は夫々が宇宙真理、稜威の拝受が微妙に異なるを、私は常に感応、感得するものである。
初めて参加参行される人の姿には日常生活からにじみ出る諸々の象が浮かび出る。
声の象、顔・体からの象、文字からの象と様々なことを覚るものとなる。
その象の悪しきものをできる限り整えることも、行の力ではあると信念するものであるが、教師等にはまだまだその力は見えずである。
たかが二日間の行ではあるが、通常修行の三年・五年分を感得する、稀にみる神伝直授の秘行法となるを、私は感得するものである。
私は神縁のあるままに多くの教場で学ばせて頂いた経緯を持つ。
夫々が素晴らしい行法ではあるが、

その本質は人を小宇宙としてみたこの小宇宙にむけるフトマニ(日神事みそぎ)の確立である。
「フトマニ」とは、宇宙の真理・絶対の絶対の法則・大調和のことであり、先天の気と感応した、神我交霊交感・神我一体・天地一枚・霊体一如・神人合一・天晴・あな面白・あな手(さむ)しの莊嚴・光輝・燦然(さんぜん)たる神遊びの境地である。
そして、天之御柱・国之御柱を結び、心の御柱を築成し、零穂凝(ぬほこ)真受け、素下霊(すくひ)の完成へと至るものである。」と。
行階梯としては「一、沖津鏡(お



大和行法は頭領行法であり、神霊世界との魂乃緒結びの捷徑の道であるを覚知するものである。
大和三大行は、五月は禊大行、九月は六根大行、十一月は結びの行としての十種大行がある。
夫々に明なる目的をもつものであるが、此度は十種神宝、十尊尊貴の稜威を太陽のエネルギーである天津大霊を通し、宇宙根元神なる天之御中主大神の稜威をも拝受せんとする行法でもある。
修行者に配布せし、教書の件(くだり)に「十種神宝」の一つ一つについて観すると、実に深遠・神妙・玄妙なものであることを知る。

きつかがみ)・二、辺津鏡(へつかがみ)・三、八握劍(やつかのつるぎ)・四、生玉(いくたま)・五、死反玉(まかるかえしのたま)・六、足玉(たるたま)・七、道反玉(みちがえしのたま)・八、蛇比礼(おろちのひれ)・九、蜂比礼(はちのひれ)・十、品々(くさぐさ)の比礼(ひれ)の十階梯にて、神人の誕生を示したものである。
十種神宝の修行により、絶対的靈魂観(全神観・全一観)を悟證することになり、これによる無私無欲の政治(まつりごと)が行われれば、自らその国は神国となるのである。
全神観とは弥栄観ともいい、我即宇宙観(われはうちゅうであり)、自分の、全てのものを与える絶対愛(アガペー)であり、全一観とは弥彦観ともいい、宇宙即我観(うちゅうはわれである)、全てのものを許す大慈大悲である。
全神観と全一観が円満具足している相(すがた)は、絶対愛と大慈悲との調和であり、ここに一に止まった絶対的価値観の完成をみる。
この相(すがた)を一旦日晃耀の白玉身といい、これを描けば十であり、〇(ひ)であり、また、これを〇と書いて、さらにこれの結ぶものを、〇止(ひと)といい、日子(ひこ)、日女(ひめ)と吾が国では呼ばれている。
かくして、上下内外一団としての「〇」(ひ)であることを体察し、体得して、身に顕はし、家に顕はし、国家、世界、萬類萬物の上に顕彰せねばならぬが、親神の霊示であり、そのための秘鍵が、十種神宝なのであると。
(二面六段へ続く)

大和三大行結行

十種大行



祈禱殿において拝神行が厳修された

本教三大行の結行となる十種大行が十一月二十二、二十三の両日に亘り執行された。初日は先ず祈禱殿において始奉告祭が斎行され、教務総長のもと、顕幽の参行者が大前に言上げられた。畠山真由美教務部長より此度の修行内容の説明が行われ、引き続き、総奉行教主様の特別講義を拝受申し上げ、大和神学の深き学びと更には「十種神宝」について学修をさせて頂いた。

続く第一座では、教務総長先達のもと、拝神行、十種神宝詞を奉唱申し上げ、参行者は皆、無心となり只管に行じた。「トホカミエミタメ」の大発声行では渾身の力にて発声、自身の内なる邪気を全て祓い禊ぎ、産霊気吹行を行修申し上げた。続いて、畠山真由美教務部長先達により第二座が執行され、授かりし秘詞奉

称では、御神火の尊い深淵なる力を拝し奉った。第三座は品川弓神事部次長が先達となり、授かりし御鏡自拝火継神事秘詞奉誦では自身と向き合い、御魂を清め、第四座では、「鎮魂靈動法」を行修した。夕刻清掃奉仕を修め、夕食を頂きながら感謝の心づくりの学びを頂いた。

明くる二日目は早朝五時に御本殿へと参集し、教務総長先達のもと拝礼を申し上げ、御本殿前神庭において田中道敏教化部次長先達による天之鳥船神事を

行修申し上げた。日の出前の早朝のご神気を拝し奉り、清々しい中での行修となった。祈禱殿では熊川知長祭儀部次長先達にて第五座、教化部次長田中道敏教師先達にて第六座、横尾匡彦教師先達にて第七座が順に行修された。

次に総奉行教主様による顕幽和合火祥神事が厳修され、顕幽の参行者が大前に言上げされると、重厚なる儀式の雰囲気のもと、高く立ち昇った御神火は幽顕界の邪霊邪気の一切を祓浄め、この世とあの世を和合なす、神秘の火祭護摩祈禱となった。

火祥神事後、教主様を真中に記念撮影が行われ、教主様よりご講義を賜り、浄明正直の心をはじめ、「こころ」について、また多岐に亘る大和の御教えが説かれた。教務総長により修了奉告祭が修められ、参行者には修行の証が授与された。

結びの直会では、一人ひとりが修行の体感談と感謝を述べ合う和みの庭となり、三大行の結行となる秋の十種大行は無事に修められた。

教主様御親教

皆さん神拝詞の大和教義を開いて下さい。大和教団の教えは保積史子様の霊能による神様との橋渡しによつて、大國主大神様が教えを樹て、お聞き下されました。大和の大道とは「人として生きる道」です。それは神様の道、浄明正直の道です。それが天照大御神様の大御心で、太陽の光の恵みを表します。分け隔ての無い、その光は受け方によって変わります。自然の恵み、太陽の光を我々は頂いております。大和の大道を世の中に広めて、そういう心の人を沢山つくらねばなりません。人としての道をもつて平和な世界をつくりましょうということです。



教主様より御講義を賜る

お互いが存在し共に栄えること。共生は当たり前です。栄えなくてはなりません。

大和の祈りと感謝と奉仕の生活をするだけで社会に大きな貢献をしております。

大和拝をするだけで世の中を清め

る力を表わしているのです。大和の信仰は諸々の悩みを解決するだけではありません。自分も一所懸命に奉仕を致しますから、神様、力を貸して下さいということ。日常生活をきちんとすると、神様に褒められ可愛がられて力を頂けるのです。

神拝詞の百六頁、「大和神祝詞の奉唱は、我に真理の自覚を催告すると共に、祖霊諸魂にも聞こえ」この世に生きていく人のみならず、幽世にも神様の世界にも聞こえるということ。見えない世界、御霊達にも山にも大地にも水にも、全てに聞こえるということなのです。「迷えるも治まらざるもの、この言霊を受け納めよ、万象は神の御心の表現にして」拝む言葉に命が宿つて響いていきます。霊(たま)には言霊・文字霊・数霊・色霊・象霊・音霊の六つがあります。「人の言葉は神の御意を告げ、万物に通じ、遠き高山の涯でも深海の底も届かざる事なく、過去も未来も心を込めし言霊は遠近の差別なし」これが大和の祈りの力です。何処にでも伝わります。イエス・キリストは、「言葉は、神なりき」と説きました。

我々の開祖は大國主大神様の代人としての保積史子様です。見えざる幽冥開祖は大國主大神様です。神々は、はなから「宇宙真理で生きなさいよ。」と教えておられます。そのための行法でもあります。「執着怨恨の霊魂等、時瞬の隔ても厭う事なし。大和は神の御心にして、大調和は世の発展の基礎なり」この世もあの世も全て調和で、それが発展します。「善と悪とは元来は一体にして、調和すべきは世の姿なり。大調和に離反する念を、これ善と片寄りて信ずるはこれ悪なり」戦争は自分が自分だと勝手な思いの結果なのです。それは誤った正義です。「永遠の調和はこれ善にして無限の弥栄を導く、総て相寄

り相扶けて、営まざる理に従わぬは迷妄にして、この迷妄を解かず」我々の行は生きていくものだけに限らず、幽世の御霊も救うものです。救うだけでなく霊格・霊威を高めてあげる行なのです。

百十一頁の、「神は万物の弥栄を望み」大和の大御名でこの世を清め為せ」と命ぜられました。大和教団だけでなく、地球上の全てがそのために生まれました。「人を以ちて御神業達成となすべき奉仕者として生を棄けしも、ゆくりなくも先祖を初め、前世が犯せる罪、己が犯せる罪、親類の過ち犯せる罪事ありしもその罪穢の償いは、深謝奉仕の業に依るを覚りて」私は大手術をする方のために、今いま苦しい人を救うために特別の祈禱をさせて頂きます。けれども自分がすべきは、深く感謝して深くお詫びする、そういう深謝奉仕の生き様をすることです。

それにより全ての因縁を解決して幽世に行ったら神となるのです。祈禱を願つても自分の心そのままだと、不平不満、欲しい、惜しい、憎い、気まま、という様な心で、お金だけ出して神様にお願いをしても、それでは半分にもなりません。

浄明正直を心掛けるのが信仰生活です。「この世の万物に謝罪の心に燃え」この現世の肉体を守ってくれのが食べ物や飲み物なのです。日本人は「頂きます。」「ごちそうさまでした。」「と言います。これは祈りの言葉です。自分の命を支えて下さることに感謝を表したのです。勿体なくも頂きます、御陰様ですという祈りも含まれます。「終生大和の心を以ち、誠の愛行を以ちて、上は大神等を初め、万の物に忠勤る事を悟るなり」感謝の生き方をしなさいと。行は今までの生活の悪いものを整え、変えるのです。

百十三頁、「この禊霊の言韻を通じて、この真理を受け、固執を脱し悪念を解除き給わば、自他共に非は

教主様おことば(続)

つづめて云えば、
「此の身此のまま神身」となり、この地上に神界衆土の大和の世界を顕現することにあると云えよう。

この大道を歩むべく道のが、「祈りと感謝と奉仕の信仰生活」の励行にあると説いているのです。

本教大和神祝詞の一文に、「大和は神の御心にして、大調和は世の発展の基礎なり。善と悪とは元来(もと)は一体にして、調和すべきは世の姿なり。大調和に離反する念(こころ)を、これ善と片寄りて信ずるはこれ悪なり」

永遠の調和はこれ善にして無限の弥栄を導く」とある。今世は戦争、紛争、奪い合いです。教えに真逆の破壊に破壊を繰り返している。人間の悪業の世界にある。譲り合いの和譲の精神に一日も早く覚醒してほしいものである。平和は大調和からしか生まれないのであるから。大和の精神に立ち還ってほしいものである。

この十二月七日に開祖様御生誕百十八年祭も和々しく斎行され、信仰体験発表では信仰の力を、開祖さまを語るの講演では感動の神庭となった。

本年も余すところ、一ヶ月となつた。教信奉者の皆様にはよい年を迎えて頂きませう祈り上げるものである。此の年も皆さまの大きな力を賜りましたことに心より感謝を申し上げます。次第である。

令和七年十二月八日
教主 秀胤

立教八十年に向けて大和の御教えを天地に満たしましょう

大和の信仰で笑顔のこぼれるような家庭を築きましよう



二日目早朝に御本宮広前にて鳥船神事を行修

許され罪は消え生死を離れて永遠の生命に融合し 元つ神に帰入するものなり

皆さんの生き様、心構え、行動が神様の生活に適えばと。

そのためには徳を積むことです。人に対し道を広め、教えを広めるといことが、神様が一番にお喜びになる徳を積むこととなります。難行苦行でなくとも、毎日の祈りと感謝の奉仕をしていけば神身となるのです。それは導いて救ってあげるという慈悲の心です。人は気ままです。規則正しく整え、宇宙の律動の中で如何に心地よく暮らせるかなのです。

五臓六腑、身体も健康で夜は休めて次の日もしっかり働けるのが一番幸せです。戦争で瓦礫の山の様な中で何年も暮らしている人々が居ます。家がある事が如何に幸せに思えるかなのです。

日本人は人を信用し易いが、外国では、「人を見たら泥棒と思え」と云います。昔は日中、家の鍵を閉めずに居られましたが、今や戸締りをして居られる世の中です。今日も無事生きていくこと自体が幸せなの

です。

信仰者は一日一日の生活の中で、神仏を信するなら、朝は「今日もしっかり働きますからどうぞ守って下さい。」と。自分のことだけではない。自分と、神様に願ったならば必ず御礼をしなくてはなりません。有り難いと気付ける豊かな心、その習慣をつけるのです。物にも感謝の思いをこめたら、物は生き生きとしま

す。生命を宿します。自分の腹中、腹室に神様が何時も宿るような姿をつくる。それが浄明正直の心です。心は祈りと感謝と奉仕の生活で清めるのです。私たちは沢山の道具の中で生きています。ペンもないと困ります。それが欠けると不自由で、有り難いと思うものです。

私はどの学校でも教えないことを教えています。ただ聞いているだけではどうにもなりません。大和の祈りには、とてつもない力があります。毎日努力工夫をしなくてはなりません。善き事は厳しきことでもあります。身体を保つのに努力をしなくては。感謝の心づくりも努力です。自然界では弱い者は滅びゆきます。私は人は二度死ぬと教えております。この世で人は死にます。そして霊界でも死んでしまうのです。それは、誰も何も思ってくれず、子孫や遺族が何もしてくれず、思い出しもしないということ。仏教ではせめて年忌供養をします。そうではなく毎日御霊さん、仏さんと語り合うことです。御霊は生きております。忘れられたら死んでしまうのです。これは二度死んだことになり惨めなこと。自分だけの信仰で、子孫に対して何も無いのは本当にかわいそう。子孫からも慕われて感謝される。それが供養です。親が教えないれば分かりません。親が教えない目で見えませんか。背中があっても自分では直接は見られませ

ん。目を閉じ、神霊界に入ると見えないものが見えてくるのです。目を閉じたら、その思いの中でどんな見えるものが広がります。これも修行の一つです。「言葉は光である。火である。雨である。水である。火である。言葉の御力を覚るべし。」大和の教えでは、「言葉ほど尊いものはない。言葉ほど恐ろしいものはない」と説きます。神様の御心に適うしつかりした人格をきちんと説いて道しるべを立てられるような言葉を話せるようになることです。



教主様を真中に記念撮影

「こころ」という此の度発刊した教書は、神拝詞や色々なものから、心と書いてあるものを選びました。心は大きくも小さくも、明るくも暗くもなり、全てのものを持つています。開祖様は、「幸せを迎えるのも不幸せを迎えるのも心次第である」と説かれました。心の正体は、何処にも見えません。自分の思う力を整えていくのが信仰です。大きな力のある神様や素晴らしい先祖と繋がるその一番の近道が神言の、「トホカミエミタメ」です。「大神の尊き神の言の葉を 祈り奉れば神となる」のです。大和のおみちびきという教

書の中より、「こころ」の三頁、

人の心は大切に

神さまは次のように申されておる

「人の心は大切に

決して 粗末にしてはいけ

人の心を粗末にするは

自分の心を粗末にすることである

人の心をよく理解し

人の心を大切に思いやる

何故なら 完全なる人間など

一人としてこの世にはいないのだから人を批判することもないのである

先ず 自分自身を反省することなのである

信仰は自分の反省をすることから

はじまります。反省無きは進歩無し

なのです。御鏡自拝とは、その行で

す。天照大神の浄明正直の心に、

今日の一日を振り返り合わせること

です。顧みて探して、深く観ることが

反省となり、見つけたら実行しなく

てはならない。煙草でもなんでもで

す。良くない知りながらの行為は

御力を頂くことは出来ません。

「こころ」の五頁、

信仰による心づくり

人間の幸 不幸は

自分自身の心のもち方一つで決まっ

てしまう

私たちの歩む人生は苦難 逆境に数

多く遭う

その人生を切り拓くのも

自分自身の心以外にはないのである

信仰はその強く正しい心をつくりあ

げてゆくものである

信仰さえすれば どんな災難からも

逃れ お金も儲けることができ

幸せが得られるなどと思う人がある

が それは非常に甘い考えであり

信仰の根本を誤っているといえる

心をつくりあげることが

信仰する者にとっての出発点であり

終着点でもあるのである

神様に今々の願いだけの解決ではありません。併せて自分自身を見つめて努力しなくてはなりません。こういう教えを頂いて、身に付ける努力をすることです。

幽世で明るい、善い世界へ行くに

は、自分の浄明正直の心、魂の輝き

しかありません。歳を取ると、あの

時こんなことをしたと。どんな思

い出すものです。人生一代謝罪祓

という祈禱法があるからと、私もお

詫びの贖いものを供えましたが、そ

の思いは消えませんでした。神様に

お尋ねしたところ、「此の世に居る

限りは消えない。しかし幽世では綺

麗になっているから、心配は無い。

そのままだの思いを引っ張って行か

なくても済む。裁かれてるから心配

無い。」と申されました。

心の正体、本当に脆いものです。

悪魔の囁きは本当に強く甘い。一

千日の行を何遍もしていますが、「も

う休め」とか「いいのではありません

か」といった甘い囁きが幾度もあり

ました。それに負けたら、終わりの

です。人を騙すのに入つて来て知らぬ

間に虜にされます。自分の心の中に

居る悪魔は本当に恐ろしいのです。

酒、煙草、賭け事、盗み等も甘い誘

惑の魅力で止められない人が多いの

です。

ある時神様から、「この御霊は悪

くない、恨み辛みを晴らそうとして

縋っている。悪いのは関りの先祖、

前世だ。」と諭されました。御霊の

声、思いを聞いて特別の供養をしな

いと恐ろしいこととなります。私は

そのように諭されながら、今にあり

ます。

私の願いは大神様の「大和の大御

名でこの世を清め為せ」という教え

を果すことです。どうか皆さん、一

人が五人を導く運動に力を貸して、

神身となる様な道を歩んで欲しいと

願っております。この世を清めるに

は、多くの信仰者の心を頂いて、教

えを信じて欲しいのです。

大和の祈りは力があります。これだけの神様が御神徳を下されるというのを信じて欲しいものです。開運発達の秘詞があります。信じて何遍も唱えることで道は開きます。本日は大変ご苦勞様でした。

十種大行感想文(抜粋)

七月に息子の手の不調のことにて教主様に尊い御祈禱をして頂き、お陰様で、八月にとても難しい手術を無事成功することが出来ました。素晴らしいドクターに巡り会わせて下さった教主様の御祈禱の御力に感謝で一杯です。

そして今回の行で賜った、お詫びと感謝という御教えが私共にぴったりと感じさせて頂きました。

教主様に丁寧な御指導を賜り、毎日拝む習慣が全く苦にならなくなりました。

大國主大神様が、「日本の役に立つ人間にならなさい」と息子に申されました。

この御恩を忘れず、手が動くようになって文字が書ける喜びと感謝を忘れず生きていって欲しいと思っております。

(相澤佳恵)

十種大行には今回初めて参行させて頂きました。

私は生後七ヶ月で体調が悪くなり病院では原因不明でした。

そんな時に近所の方に教えて頂き教団へ毎日のように通って、開祖様に治して頂いたのが縁で現在に至ります。

神様の事を分らない者が、行をしても良いのかと思いましたが、参行してみても、正直初日は何も分からずでした。

しかし二日目には教主様の神事に

